

# 2007年度事業計画

2007年4月1日から2008年3月31日まで

特定非営利活動法人エファジャパン

## I. 海外事業

### 1. ベトナム事業

#### (1) 子どもの家運営支援事業

子どもの家とホンバン愛の家を対象とした子どもの生活状況改善支援事業は2007年で2年目を迎えます。4月の評価会議にともなうスタディツアー時にて、合意書に基づき、第一回目の支援金（半年分）を手渡し済みです。第2回目は履行状況と報告書提出状況を確認して10月末頃に支払う予定です。日々の食費については物価上昇の問題が懸念されますが、担当者が食料購入において出費を抑える工夫をしたり、新たに始まった政府による配給支援（お金でなくお米や砂糖などの現物）を利用したりしながら、質の高い食事を提供し続けられるように努めていく予定です。文化活動については、2006年度同様に二つの施設合同で泊りがけの遠足を計画しています。また各種の交流会や課外活動なども積極的に組んでもらう予定です。

また、子どもの家の職員を対象とした、子ども家職員待遇改善支援事業も2007年で2年目を迎えます。第一回目（半年分）の支援金は、履行状況と報告書提出状況を確認して、合意書に基づき6月に支払う予定です。職員の待遇改善支援とともに、子どもの家における各種教室の運営管理や子どもの積極的な参加呼びかけのもこの事業の一部として考え、子どもの成長やニーズに合わせてクラスの増減を相談しあっています。待遇の改善により職員の責任と熱意が増したことで、更なる活動の充実にむけ現地側と協力し合っています。

#### (2) ホンバン愛の家支援事業

子どもの生活状況改善支援事業については、前述の通り、子どもの家とともに引き続きおこなっていきます。気になるのは少々はなれたところにあるホンバン愛の家の子ども達が子どもの家の活動に参加するのが難しいことです。自転車に乗るにはまだ幼い子どもも多く、また自転車の数も少ないため、継続した参加が困難です。2007年度は、これらの活動に参加できるような工夫（例えば、子どもの家の職員をホンバン愛の家に派遣してもらうなど）と関係者への呼びかけを通して、ホンバンのような施設が閉鎖的にならないように子ども達の活動の場を広げていきたいと思えます。

#### (3) アジア子どもの家奨学金事業

2006年からエファジャパンが関わるようになりエファジャパンがホンバン愛の家を含めた支援をしていることから、2007年度からははじめてホンバン愛の家の子ども達にも奨学金

が授与されることが約束されています。例年通りこの奨学金はハイフォン市の多くの児童保護施設のケアを受けている子ども約 70 人に授与される予定です。奨学金の主な用途は、勉強（通学）のための文具、本などです。それとは別に子どもの家とホンバン愛の家の子ども全員には健康保険料もカバーされます。また、枯葉剤や疾病などで緊急に治療が必要な子どもの経費も多少計上されます。奨学金授与式は 8 月に予定されており、現地側との事前協議をしながら開催を迎えたいと思います。

#### (4) 新規：ハイフォン市児童保護施設職員の研修支援事業

本事業では、児童保護施設に関わる勉強の先生、職業訓練の先生、保育士、相談員などの質の向上と能力開発を目指した研修を支援します。これらの施設に関わる職員は、現役を退いた教師やボランティア的な人材が多かったり、専門の研修を受けたことのない人材が多いため、良質な教育を提供することが難しく、また離職も多いという問題があります。かねてよりハイフォン市との話し合いの中で、これらの施設の職員の研修制度を構築して職員の専門性を高めるとともに責任や熱意の向上をはかりたいという要望があったため、エファジャパンもその重要性を理解し協議を進めています。ハイフォン市による調査資料をもとに出張時に話し合いを重ね、現在大枠が見えてきたところです。支援金は 2 年間で約 100 万円を予定しています。

#### (5) イェンバイ省 SCJ 共同事業

3 月、4 月の出張時の SCJ との話し合いおよび 2006 年度の報告書より、事業が順調なことと現地による運営組織体制が整い始めていることを確認しました。山岳地帯の乳幼児ケアや、子どもを取り巻く様々な環境作りに貢献する本事業は非常に意義があるため、2007 年度も引き続き共同事業を行ないます。事業内容・予算ともに 2006 年同様とし、両親の研修、青年層への子育ての研修などに焦点をあてた支援を予定しております。

#### (6) 商品開発事業

子どもの家でおこなわれている刺繍・縫製の職業訓練を通して、今後もエファグッズ等の開発、販売、販売路の開拓をしていきます。2007 年度は皆様のご意見を反映させていただき、これまで女性向けの商品が多かった部分をあらため男性にも適した商品を開発しました。今後も子どもの家職員との協議をしながら、刺繍デザイン、素材の選択など現地と協力しながら進めていきます。

## 2. カンボジア事業

### (1) CYR 共同事業

2006 年度の共同事業に、本年度より自治労関東甲地連の参加をいただくこととなり、2007 年も引き続き同様の幼稚園運営支援や幼稚園教師の研修支援を行ないます。実際に現地で活動を担う CYR は新たにスラムでの託児所支援を始めたり学校を建設したりと活動を広めており、カンボジアの現地 NGO ケマラとの連携も問題なく行われています。

現在、いくつかの保育所や学校建設にあたり協議が進行中であり、エファも CYR と協力していきたいと考えています。また、既に建設の終わったテッカポンヨ幼稚園、改修工事の終わったロカカオン幼稚園のフォローアップも課題です。特に、テッカポンヨ幼稚園を訪問された会員の方々から環境整備にかかるご指摘を受け、CYR との協議の結果、2007 年は予算内から環境整備にかかる経費を捻出し、政府担当者による管理体制を整えまたこの問題に対する幼稚園職員の意識改善を目指す工夫をしていくことが決定しました。

## (2) SHARE との共同事業

保健衛生 NGO の SHARE と神奈川県本部との共同事業にエファも参加したことにより、エファにとっては初めての保健衛生事業ではありますが、子どもを取り巻く環境改善支援という共通の課題のもとにバックアップをしていきたいと思います。事業地訪問や SHARE との協議、報告をもとに、事業の展開に向け協力をしていきます。

## (3) 新規：スラムの子どもの教育支援事業

2007 年度からはこれまでのスラムの子どもに対する子どもの家通園のための奨学金に加え、貧困な村から来ている優秀な幼稚園教師養成学校の訓練生の奨学金も考慮し、かつカンボジアの現地 NGO との共同事業により子どもの家の近隣のスラムにノンフォーマル教育事業（寺子屋的学校）を展開し、どのような境遇においても教育へアクセスできる環境を提供できるような事業内容を展開する方向で進めています。この現地 NGO とはこれまで 2 回の話し合いを通し、きちんとした理念のもとに設立された信頼をおける NGO ではないかと判断しています。現地 NGO の活動を広げ協力し合うことも NGO の大事な任務であるところと見え、共同事業においてはまず 1 年契約とし履行状況や報告状況を確認しながら先に進むか決めていきたいと思います。事業開始はカンボジアの新学期にあわせ 10 月から、2 年間において子どもの家奨学金（30 人）と国境付近の貧困な村から来ている優秀な訓練生（15 人）への奨学金を提供し、同時に現地 NGO とのノンフォーマル教育の共同事業（3 箇所のスラムの子ども達約 300 人への教育提供）を展開する予定です。

## 3. ラオス事業

### (1) ヴィエンチャン市立図書館運営支援事業

2006 年 12 月に正式開館したヴィエンチャン市立図書館には正規職員 5 名、非常勤職員 1 名のスタッフがいます。エファからは運営資金として毎月 \$ 520、正規職員並びに非常勤職員の超過勤務代、手当、及び非常勤職員の給料が支払われています。

一日平均 300 人の利用者が訪れ、特に隣のヴィエンチャン中高校の生徒たちの集いの場となっているようです。今後は中高生だけでなく、小学生以下の子供たち、そしてこれまで就学機会に恵まれなかった大人たちの学びの場となって欲しいものです。

図書館の書架にはまだまだ本が少なく、これから蔵書や備品を増やして行くこと、小ホールでの主催活動を増やして行くことが課題となります。年末には開館 1 周年記念行事も予定しております。また、今年度は図書館の看板と門扉の新設、その後旧館の改修工事を計画し

ています。今後、日本又はタイ等第三国での司書研修や、館長のマネージメント研修、職員全員の英語研修、経理担当者の研修などが必要となってきます。皆様の御支援をどうかよろしくお願いいたします。

#### (2) ルアンパバン子ども文化センター

自治労佐賀県本部が支援を続けてきました、子ども文化センター（CCC）のプロジェクトですが、今年12月末をもって終了することとなりました。年間30万円を2回に分けて支援してきましたが、来年度からは自立して頑張ってもらいたいと思います。最終年度の中間評価を6月に、最終評価を2008年1月に行う予定です。ルアンパバン CCCからはトイレの設置を要請されており、6月の出張時に現状を確認します。

## 4. 緊急人道支援

2006年度のジャワ島地震における被災者支援の寄付金の内未使用の約300万円を、引き続き同目的にしたがってジャワ島支援に充当します。現在被災地では、緊急時を脱し復興支援の時期にきています。貴重な寄付金を、最も有効に活用できるように、現地NGOとの協議や調査を継続して進めた上で、早々に支援内容を決定して実行いたします。

尚、その他緊急支援の必要な事態が発生した場合は、ガイドラインに沿って、必要に応じて支援活動や募金活動をおこなってまいります。

## II. 国内事業

### 1. 組織拡大（会員・エファパートナー加入促進）

昨年同様、自治労のご協力をいただき、各集会への参加や職員の訪問等を通じて、会員・エファパートナーとしての参加、協力を要請し、支援者や活動への理解者の拡大に努めていきます。また、会費・パートナー寄付の銀行口座自動引落について、労金以外の他の金融機関からも利用できるよう体制を整えていく予定です。

### 2. イベント

エファジャパン3周年記念イベントや理事長講演会、活動報告会など、アジアの子どもたちの状況を伝え、エファジャパンの活動や国際協力への理解・関心を深めていただく各種イベントを本年度も実施する予定です。また、会員の集いやボランティア交流会など、会員・ボランティア・支援者の皆様との連携促進を図るイベントを定期的に行いたいと考えています。

### 3. スタディツアー

会員や一般市民の方を対象に、エファジャパンの活動地を訪問し、支援地の様子や支援の成果を実際に肌で感じていただくスタディツアーを夏期・春期の年2回実施する予定です。（夏期は、8月中旬頃ベトナムを訪問するツアーを予定しています。）

### 4. 他機関との連携（各種ネットワークへの参加）

エファジャパンの理念に合致した社会的ネットワークに積極的に参加し、他 NGO 団体・各種機関との連携強化を図っていきます。

- ・ 児童労働反対世界デーキャンペーン 2007（2007年5月～6月）（賛同団体）
- ・ 国際協力 NGO センター（JANIC）（正会員）
- ・ G8NGO フォーラム（サポート NGO）
- ・ NGO-労働組合国際協働フォーラム（企画委員）
- ・ ほっとけない世界のまずしさ（賛同団体）等。

### 5. 広報

#### (1) えんばわ

今年度誌面をリニューアル。年4回発行。

#### (2) 年次報告書

今年度より年次報告書を発行（2006年度分）。主に会員・パートナー、関係者、関係団体へ配布するほか、エファジャパンの活動をご理解いただくための資料として活用する予定です。

#### (3) エファグッズカタログ

5月～6月の間に改訂予定。商品の入れ替えや、価格の改定も予定しています。今回はボランティアカメラマンによる撮影を行い、撮影場所に事務局近隣の家具店にご協力いただきました。

#### (4) HP

これまでスタッフが撮影した動画を少しずつ追加していく予定です。個々は短いものとなる予定ですが、現地の様子やスタディーツアーなどをご紹介します、多くの方にエファジャパンの活動を目で観ていただきたいと考えています。

### 6. ボランティア

月1回のエファボラを継続する他、単純作業以外の部分にもボランティアの参画を得ら

れるような企画を考えていきます。

手始めに、広報誌「えんばわ」に編集ボランティアに参加していただきます。また、主にエファグッズに関わっていただくクラフトボランティアや、秋のフリーマーケットに参加するための企画運営ボランティアを募集する予定です。